

様式 2

1	審議会名	平成 30 年度 第 1 回安曇野市子ども・子育て会議
2	日 時	平成 30 年 10 月 15 日(月) 午後 1 時半から午後 3 時 30 分まで
3	会 場	安曇野市役所 共用会議室 306
4	出席者	犬飼委員、依田委員、後藤委員、宮下委員、赤堀委員、大澤委員、丸山(広)委員、 武井委員、木下委員、水谷委員、丸山(屹)委員、大倉委員、
5	市側出席者	花村部長、櫻井学校教育係長、曾田教育指導室長、山口社会教育担当係長 渡邊健康支援担当係長、上条健康推進担当係長、鳥羽子ども支援課長、 塚原子ども支援課長補佐、黒岩保育担当係長、丸山係長、横山主任
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0 人 記者 3 人
8	会議概要作成年月日	平成 31 年 1 月 17 日

協 議 事 項 等

I 会議の概要

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付
- 3 市長あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 会長及び副会長の選任
- 6 会議事項
 - (ア) 事業計画概要及び平成 30 年度上半期進捗状況報告及び検討について
 - (イ) 今後の日程等について
 - (ウ) その他
- 7 閉 会

II 協議概要

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付
- 3 市長あいさつ

どうも改めまして、こんにちは。それぞれ、大変お忙しいところご出席をいただきありがとうございます。都合によって欠席をされている委員の皆さんもおいででございますが、大変暑い夏、猛暑酷暑といわれた夏からようやく涼しさも増してまいりました。そんな中で、認定こども園や、あるいは小中学校にクーラーを早く設置してほしいというような要望が出されているところでございます。早急に具体的な計画を立てながらクーラーの設置を進めていかなくてはいけないなど思っております。ただ部長から議会の答弁でもございましたが、新年度は認定こども園の遊戯室には優先をして設置をさせていただくことになっております。あとは、低学年から逐次、若干時間がかかりますけれども、設備を整えていきたいと思っております。

日頃はそれぞれのお立場で、市政運営に対してご支援ご協力を賜っております。とりわけ、福祉行政に深いご理解を賜っており、改めて感謝御礼を申し上げたいと思っております。

すでにご案内のとおり、少子高齢化、人口減少時代、大都会一極集中、なかなか解消が出来ない状況にありますし、私共も近い将来、保育園、認定こども園のあり方、あるいは小学校のあり方等、場合によっては統廃合も含めたり、民間移行も含めたりしながら、多角的に検討をしていかななくてはいけない時期を迎えております。

いずれにいたしましても、待機児童、松本市が 20 数名、安曇野市も今年初めて 7 名の待機児童がいると新聞にも大きく報道されたところです。今、厚生省が進めております未満児保育の施設整備を逐次進めていきたいということで、今、市では、3園ですか、来年に向けてもう 2園ということでございます。

また、県が進めております山保育、自然保育、こういったところでも力を入れていきたいということで、依田さんにもお越しいただき、現場の状況報告をいただき、第 10 回の子ども・子育て支援、自然保育のあり方等、全国大会安曇野市で開催させていただいて、こんな経過もでございます。

いずれにいたしましても、国においては平成 27 年 4 月から、子ども・子育て支援新制度を施行いたしまして、これに伴って、市におきましても子育てに対する支援のあり方について、子ども子育て支援事業計画を策定させていただきまして、計画的な事業展開に努めている状況でございます。

本日の会議は子育て中の保護者の皆様方、そして、関係団体や学識経験の皆様方、そして公募委員の皆様にご参集いただきまして、市がこれから展開をする子育て支援施策についてどうあるべきか、ご検討を賜りたいと思っております。安心して、子どもを産み育てるにはどのような環境にしていっていいのか。特に今の若者は結婚しない皆さんが増えてしまっているということや、あるいは、大学等進学で故郷を離れて、なかなか故郷に戻ってこないという現象がございます。特に女性の皆さんが戻ってこないというようなことが言われております。

そんな中で、結婚をどう促進していったらいいのか、また、産業振興、働く場が安曇野市はたくさんあるのですが、どんな企業があるのかよく知らない皆さんが結構増えていてびっくりいたしました。その中で、企業紹介等は教育現場でもしっかり連携をさせていただいて、どんな企業があるのかすばらしい企業がたくさんあるということを知っていただくような、社会教育の中で取り組んでいく必要があるのではないか、そんな思いがいたしております。

いずれにいたしましても、委員の皆様方の豊富な経験、そして知識を安曇野の施策に生かしていただきたいなという思いでございますので、是非色々な意見をお聞かせさせていただいて、共に安曇野市の発展のためにお力をいただきたいなと思います。

また、先日、社協へお願いをしているのですけれども、出産をしてから間もないお母さん方が安曇野に来た場合どこに相談したらいいか分からないというようなことや、あるいは、やっていただいているのですけれども今やっていただいている政策、施策が関係する皆さん方まで本当の意味で伝わっていないのかなあという思いが致しております。

特に未満児を抱える親御さんたちが、二世帯住宅がなくなってしまいましたし、高齢者と一緒に暮らすという事がなくなって、大変戸惑っている。友達もなくて相談するところがなくて、困っているというようなメールがきておりました。未満児のお子さんが集まる場所は、社協さんが用意をしてくださっているのですが、年代別に 3 歳児のお母さんと 0 歳児のお母さんと子どもの育て方が違うし分からないというような意見が出ていましたので、子育て一貫性をもった安曇野市としての支援策を講じているところでございますが、まだまだ補い足りない面が多々あるかと思っております。

きめ細かい子育て支援をしていく、そして未来を担う子ども達が健やかに育って、安曇野市に愛着をもつていただいて、ここに住み続けたいと思われるような、あるいは、ここを離れても故郷を忘れないように地域のために頑張るよと、そんな子育て支援が出来れば良いなと考えております。

ある面では限られた期間の中でそれぞれの委員の皆さん方から出る知恵をお借りして一つの政策立案をし、予算にも反映しなければいけない面も多々あるかと思っております。ただですね、財政が非常に厳しい状況でございます。一方では借金をするな、高額な負担は残すな、また一方では一番難しい課題が、合併の時に持ち込んだ、それぞれの公共施設のありかたです。自分のところへくれば、不便になる、残せなど、矛盾をする点がたくさんございます。これらを乗り越えていかなければならない課題、避けて通れない課題と認識をいたしております。是非、皆さん方から子育て支援はもとより一斉運営全般についてもまた率直なご意見をお伺いできればと思います。

これから気象変動が激しい時期になってまいります。健康が第一でございます。健康長寿の街と掲げている市でございますので、風邪等お召しにならないように、十分健康に注意してご活躍をしていただくことをお願いを申し上げて、大変整いませんが一言お願いのご挨拶とさせていただきます。今後ともお世話になります。どうぞよろしく申し上げます。

【事務局】

それでは第1回目の会議ということで、それぞれ自己紹介の方をよろしくお願ひします。お配りしました委員名簿の1番の方からお願いいたします。

4 自己紹介

5 会長及び副会長の選任

【事務局】

それでは会長及び副会長の選任ということでお願ひしたいと思ひます。条例の第5条に基づきましての選考となります。会長副会長どなたか立候補推薦等ありましたら、お願ひします。

【A委員】

事務局からの案はありますか。

【事務局】

会長に犬飼委員さん、副会長に依田委員さん、それぞれ前期から引き続きお願ひしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それではお願ひしたいと思ひます。

市長ですが、この後会議等ございますので失礼させていただきます。

では会長、副会長の方から、ご挨拶の方をお願ひいたします。

【会 長】

改めまして、みなさんこんにちは。委員さんの顔ぶれが新しくなりまして、そろったということで、みなさんの意見を色々引き出していききたいなと思っております。

私自身は松本市の人間なものですから、安曇野市に在住のみなさんの意見がこの会を作っていくというようなことで、活発なご意見を頂戴できればと思ひます。

それから、色々な行政関係の事、専門の用語が出てくるのですが、初めての委員さんの中にはそれってどういうことなのかなと、分からない部分も出てくると思ひますので、その点については説明を加えながらの進行をお願ひできたらよろしいかなと思ひます。

2年ということですが、これ以上、体が壊れないように気を付けながらお勤めしたいと思っております。

す。よろしくお願いいたします。

それから、発言の時に皆さん声を出来るだけ声を張っていただきながら、みなさんに届くようなお話をお願いが出来たらというようなことで、会長の挨拶としては進行についてだけですけれども、そんなことで是非ご協力をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【副会長】

よろしくお願いいたします。ここには、子どもに直接関わる、現場の皆さんがたくさんいらっしゃって、みなさんの声が市の事業計画に反映されるようになったら良いなというふうに思っております。子育て中の方も、子育てを終えた方も、子育てに関わるお仕事をされている方も、いろんな立場の方がいらっしゃるので、いろんな方面から色々なお考えをお伺いできればなと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、以降の会議進行につきましては、副会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

6 会議事項

【副会長】

それでは、早速会議事項に移らせていただきます。なお、会議開催に先駆けまして次の事項に関しまして事前のお願いとなります。本会議は公開で行ないます。会議概要等議事録を作成すること及び傍聴者のあることをあらかじめご了解いただきますようお願いいたします。では、以降の議事進行については、犬飼会長にお願いいたします。

【会 長】

それでは、お手元の会議次第に沿って進行させていただきます。まずは、会議事項（1）子ども・子育て支援事業計画概要及び平成30年度上半期進捗状況報告及び検討を事務局よりお願いします。まず始めに、事業概要とこの会議の意義について、事務局よりご説明をお願いします。

（1）子ども・子育て支援事業計画概要及び平成30年度上半期進捗状況報告及び検討

資料1

【事務局】

子ども・子育て支援事業計画冊子により計画概要の説明

【会 長】

ありがとうございます。事業概要ということで、支援事業計画の冊子がお手元に渡ったと思いますが、またお時間をみましてじっくりお読みいただきたいなというふうに思います。

では続きまして、上半期の進捗状況報告をお願いします。資料1ですが、安曇野市子ども・子育て支援事業計画平成30年度上半期事業報告の2ページからの、「幼児期の教育・保育」について、担当者よりご説明をお願いいたします。

■1 「幼児期の教育・保育」について

【事務局】

資料1に基づき説明（質疑なし）

■2 「地域子ども・子育て支援事業について」

【会 長】

続きまして3ページからの「地域子ども・子育て支援事業」の進捗状況及び実績報告につきまして、それぞれの担当者様よりご説明をお願いいたします。なお、該当事業が先ほど申しましたが13事業ありますので、3事業ごとに区切りながら質疑応答をとりながら進めていきたいと思っております。それでは（1）妊婦健康診査から（3）地域子育て支援拠点事業までの説明を担当者からお願いいたします。

■（1）妊婦健康診査

■（2）乳児家庭全戸訪問事業

■（3）地域子育て支援拠点事業

【事務局】

資料1に基づき説明

【会 長】

計画数と、上半期の数というのは今ご説明があった通りです。出生率が減っていてこの数字になったということですか。

【事務局】

妊娠届出数が減少傾向でして、上半期に来る方はだいたい平成29年のうちに妊娠届をだされて、4月から8月の間に出産される方が多いのですが、妊娠届出書が平成28年より29年のほうが下がっておりまして、その影響が考えられるということです。

【会 長】

はい、わかりました。他は、いかがでしょうか。

【B委員】

数字からどういうふうに読んでいったらいいのかなあというところなのですけれども。例えば、（2）の乳児家庭全戸訪問事業や（3）の地域子育て支援拠点事業などは利用者がどんなふうに感じたりしているのかなあというところが、数字だけ見てわからない。数字が多いということは、リピートして参加しているという、地域子育て支援拠点事業のほうは、参加者が多いということなのか。乳児の家庭全戸訪問というのは、これによって実際に出産後の子育ての不安感が解消されたり、もっと新たに必要なサポートにつながられたりという実績があるのかどうかを教えていただけたらと思います。

【事務局】

（2）乳児家庭全戸訪問事業ですが、先ほどの説明で足りなかったかもしれないのですが、まずはこちらで全戸を基本的には訪問させていただくというかたちで、いわゆる、赤ちゃん訪問は全員させていただいています。そこで、ご相談して、そこで終わりというのはなくて健診とか相談とか次の事業の方で相談するとともに、後ろの説明で養育支援訪問事業というのがあるのですけれども、そちらのほうにつながっていくという方もいて、やはりこれで終わりというわけではなくて、今後継続という支援の仕方になっていると思っております。

【会 長】

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

【事務局】

(3) 地域子育て支援拠点事業ですけれども、昨年度と比べてみますと、昨年度上半期の実績が9,085人、その数字と比べますと、1,000人ぐらい減っているのですけれども、毎年年度末に利用者の方にアンケートをとっておりまして、満足度というのが、9館あるので、多少館ごと違いはあるのですけれども、だいたい90%を超えているという状況です。ただ、単純に事業がだめだからということではないと思っております。

【B委員】

その、10%の理由は様々だと思うのですが、例えば、どんなこと、開催日時とかそういうことなのでしょう。

【事務局】

それは把握しておりません。

【会 長】

よろしいでしょうか。

次の3事業になりますけれども、(4)延長保育事業から(6)病児病後児保育事業までを担当者からお願いします。

■ (4) 延長保育事業

■ (5) 一時預かり及び幼稚園の預かり保育

■ (6) 病児病後児保育事業

【事務局】

資料1に基づき説明

【会 長】

ありがとうございます。身近な問題がたくさん出てきましたけれども、いかがでしょうか、委員のみなさん。子育て中の方達もいらっしゃると思いますが、何かありましたら、お願いします。

標準時間が11時間ということで、子ども達の生活時間の大半を保育にお願いしているという状況があるのですけれども、それが増えているという事は、常勤の勤めのご家族が多くなってきているという傾向があるのでしょうかね。

【事務局】

おそらくそういうことだと思います。以前よりやはり女性の就労人数も年々増えてきているので、それともなって園に入る方がどんどん増えてきている。かたや1号認定、保育の必要のない方が減ってきているという状況になってきている。保育の必要性がある方というのが増えてきているので、それに伴って増えているのだらうなということです。

【B委員】

延長保育事業で昨年から今年まで30人ぐらい標準時間のお子さんが増えているという事で、30人という公立園だと18園あるので、だいたい各園で1人か2人増えていると想像すればよろしいのでしょうか。

【事務局】

そうですね。平均すればそういうことですね。

【B委員】

園によっては、交通の便が良いところの園だと、子どもさんが増えている傾向があるのでしょうか。ある園によっては増えているという、偏りもありますか。

【事務局】

園自体も利用状況というのは、やはり山側よりも中心部のほうが利用の人数も高いので、そういったところを中心に増えているというのはあると思います。

【B委員】

保育時間が延びると、子どもの育ちというのが日本や世界で色々研究・結果が出ていて、育ちが心配でやはりこども園でも保護者への理解を推進していると思いますけれども、実際に現場で延長保育のニーズが高まったことで子どもの育ちになにか変化とか、問題が増えていることはありますか。

【事務局】

今のご質問に対してですけれども、一概にすべて長時間保育で預かる子どもたちに問題があるとはとらえてはおりません。やはり状況の中で家庭の中でも、お母さん自体が例えば短時間であっても子育てに対して苦勞を感じていることとは思います。一概に長時間保育をやっているからといってもただ、お母さんたちを待つ子どもたちの思いには、しっかり受け止めていって、出来るだけ安定な保育をしております。

【会 長】

ありがとうございます。ただ時間と向き合うだけではない、保育の補佐というのものもあるし、現場の保育の先生たちに本当に助けられてというお母さんたちがたくさんいらっしゃるので、このことについてだからよしではなしに、就労者、女性の就労が求められているという観点からすると、安曇野市商工会の武井様、今働き手を求めるということで、なかなか働き手が見つからないような中で、お母さんたち家庭の主婦が就労を求めているというようなことは、出てきているのでしょうか。

【C委員】

そうですね。個人事業でも、女性の社員もいらっしゃいます。

【会 長】

市も、良い事業所がたくさんある、しかし若者がみんな出て行ってしまうという中で、働き手の雇用の促進をする中、かたや、家庭ではみんな大人が働き手に出て行ってしまうという、両方の問題を抱えています。それを子どもや保育の担当者がみんな担っていくというような、循環がどんどん進んでいくような気がするのですが、子ども支援課だけでなしに、行政の縦横の繋がりを良くして、市がどういう方向で進んでいくのか、子どもを育てるために産業がうまく振興していくために、全体を通して考えていかなければいけないかなと思っています。

ありがとうございます。他に何かありましたら。

【D委員】

実際に私は延長保育を利用させていただいています。9月から利用を始めたのですが、就労時間が長くなったことと、あと土曜日でも出勤が必要ということで土曜保育も利用させていただきました。

私ももちろん働きたいですし、働いているところからしても働いてほしいということでそうだったので、1カ月2カ月、それで延長をして、土曜保育も別の保育園なので預けてみたところ、子どもが不安定まではいなくても、朝泣いて保育園に行きたくないという状況になってしまったので、今は、土曜保育はお休みさせていただいています。

親としても働きたいけれども、子どもが実際にづらい思いさせてまで預けるのもという葛藤があって。働かなくてはいけないし、でも預けるのもというところで、なかなか親としては、実際はどうすればいいのかなと

いう迷いが生じているので。

女性が働くことを推進してはくれますけれども、保育を担う側としてはそんなに預けられても困るところもあるし、子どもにとっては親との時間を濃くした方が良く、それぞれのご意見があると思うのですけれども、親としてはどうすればいいのかなというところが、正直なところだと思います。うちの家庭は子ども達とうまくやっているとこの家庭もあると思うので、なかなか一概にはいえないと思うのですが。

【B委員】

こどもさんは、何歳ですか。

【D委員】

預けているのは、年長と年少です。泣いているのは年少です。

【E委員】

私も以前保育をしていた人間です。延長保育も経験しては、朝早く来る子も、遅く7時ぐらいまで長い子はいたんですけども、そういう子も保育をしていた立場で言わせていただきますけれども、やはり不安定な子が8時間保育の子よりも多かったと感じております。

土曜保育は決まった園があって、近い園ですけれども、そちらに行くようになっていくと思うのですが、私が経験していた市では、各園土曜保育はやっているところでした。なので、泣いているというほどのことはなかったと思うのですが、そうなる利用する子が一人であっても、一人そこに保育士が関わらなくては行かないので、多分人件費がかなりかかってくるのではないかなと思うのですが、各園で希望者があれば各園でやっていたという市もあったので、一応お話しておきました。

一時預かりのお話も先ほどありましたが、これも決まった園で、来年度は入園申し込みで資料を見たのですが、各園となっていたのですが、それは来年度各園で行うのでしょうか。

【事務局】

おそらく、預かり保育、1号認定のことではないかと思うのですが、一時預かりは、保育ガイドの一番後ろのページに一覧がのっています。

【E委員】

私も、誰も子どもをみる人がいなくて、預けたいなあと思ったときに、一時預かりを利用したいと思ったのですが、私の家の近くだと堀金になってしまうのですが、そうなる利用するのに大変で。やっぱりそれだったら、親に何とかお願いしようかなとか、あとファミリーサポートにお願いしようかなという感じになってしまっているの、想定していたより少ない預かる場所が、ひとつ原因があるのかなと思いました。

【会 長】

はい、ありがとうございます。突発的なことで一時預かりをお願いしたいというケース。なかなか遠いと大変だということでした。標準時間認定だとか、保育時間が長くなることで子どもさんが安定したまま、とって助かりますというお家もあれば、少し躓いて難しくなるお家もあるので、ひとつひとつの家庭の事情が違うということで、そんなことをすべて引き受けて、頑張ってくださいというのが保育士さん達なのかなと思います。

お母さんたちの園の相談体制とか、そんなのも充実されていると思いますけれども、一過性ではなしにこれから親になっていく子たちがみんな体験していくことなんだなあということも踏まえて、サポート体制についてしっかりと考えていければと思います。

他にはよろしいでしょうか。では、次にいかさせていただきます。(7)ファミリーサポートセンター事業から(9)利用者支援事業までの説明を、ご担当者からお願いいたします。

■ (7) ファミリーサポートセンター事業

■ (8) 放課後児童クラブ事業

■ (9) 利用者支援事業

【事務局】

資料1に基づき説明

【会 長】

ありがとうございます。ここまでのところでなにかありましたらお願いいたします。いかがですか。
例えばお母さんたち、ファミリーサポートセンター事業というのは、一般にお友達のお母さん方をご存知な状況はありますか。

【D委員】

私は知ってはいますし、ファミリーサポートセンター事業という名前は皆さん知っているかとは思いますが、私の周辺では実際に利用している方はいないです。

【E委員】

周りの皆さん知っていますけれども、利用されている方は少ないかもしれない。出産などで利用している方は何人かいらっしゃいます。

【C委員】

小学校で子どもがお世話になっていた頃は、こういう会だとか音楽会だとか行事の時にファミリーサポートを一時預かりで利用したりしていました。

【会 長】

学校行事の時にお願いをするということですね。他はありますか。

【D委員】

学校の音楽会の時に学校で預かっていただくということですよ。それはやっていたけれども、うちの東小学校ですが一人か二人しか利用はしていなかったと思います。

【C委員】

こちらは30人ぐらいいました。小学校低学年のお子さんも預かっていただけないかと交渉してやっていたいたりしました。

【会 長】

それがきっかけかもしれないですね。

【事務局】

ファミリーサポートの周知なのですが、乳児健診とあるのですが、3、4カ月健診の育児教室でファミリーサポートの話をさせていただき、周知を健康推進課のほうではさせていただいています。

【会 長】

今、スマホ子育てというのがあって、見たことありますか？

スマホで、こんなときどうしたらいいのだろうというもので、長野県は分からないのですが、神奈川とか東京のお母さんたちが「子どもがこうなんです、どうしたらいいでしょう」と質問するような、お母さんネットワークみたいなものがあって、みんなそこから情報を得ているのですよね。

それは別としても、SNSを使う等の、安曇野市の子育て支援事業としてそんな情報発信が出来るようならば、ネット上でここに行くといいですよと、妊婦さんになったときに、そんな情報を流しておく妊婦さんはスマホをすぐ見るんです。面と面との向かっての相談は出来ないんだけど、顔が見えない相談というのはすごくしやすいというのが今の若いお母さんたちにはあって、それを勧めるわけではないのですが、せっかくの機能

ならば上手に使っていくというのも一つかなあとと思います。他はいかがでしょうか。

【E委員】

私もファミサポを知ったのが、出産のとき、訪問に来ていただいてパンフレットを見たりだとか。あと、保育園の保護者会の時に困ったときの事業として教えていただいて知ることが出来ました。登録はしてありまして、個人的には利用しないのですけれども集団託児の時に利用させていただいています。

【会 長】

はい、ありがとうございます。

【A委員】

ファミリーサポート事業、委託事業ということで、安曇野市から受託をして私たち社協で、事務局は堀金の方でセンターを構えているのですけれども、担当の職員はまずファミリーサポート事業というものを、主に子育て中のご家庭の皆さんにおいては、使う・使わないは問わず、知らない人がいないように、皆がこれを知っているということをひとつの目標といいますか、誰もが知っているというところを目指そうということで、担当の方で事業周知に力をいれています。

子育てに関する月刊誌に定期的に掲載させてもらうとか、リーフレットを増刷して色々な関係機関に配布させてもらうとか、あるいは、ファミリーサポート事業に限った話ではないのですが、これからは私たちの事業もマスメディア、新聞、紙面だけじゃなくて、映像やラジオとかそういったところと提携をして、様々な事業の周知をしていこうと考えております。

ただその一方では、制度をうまく使っていただくことが、そのための制度なのですが、一方では制度を使わなくても近隣で何とかし合うというような、社会福祉協議会としては、何を考えてもそこに行きつく、ご近所への支えあいというか公助活動というか、もちろんその制度も選べる、でもそこまでいかななくても隣近所さんでサポートし合える。民生委員さんがいてちょっとお願いしますということができ、近くに頼れる人がいる。そういった、小さな地域の中での互助というのも大事にしていきたいなとしています。

【会 長】

はい、ありがとうございます。原点なのかなというふうに思いますけれども、あのサービスを考えていくとどうしてもやりすぎという言い方は不適宜なのかもしれないのですけれども、自助努力でなんとか出来て、子育ての充実感を得ていくという親側の親育ちという部分が、欠ける可能性があるかなと思います。

地域で子どもたちを育てるために行政側がサービスを提供するというのは大事だと思いますけれど、本当にかゆくないところまで手の届くようなサービスは必要ないのかなという思いでおります。それでも本当に必要などころに必要な手が届く、情報だけは発信をしてゆくという、ボーダーが難しいところではありますけれども……。ご意見ありがとうございます。

他いかがでしょうか。

(10) からの4つの事業、担当者からよろしく願いいたします。

- (10) 養育支援訪問事業
- (11) 子育て短期支援事業
- (12) 実費徴収に係る補足給付事業
- (13) 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業

【事務局】

資料1に基づき説明

【会 長】

はい、ありがとうございます。13事業まで説明をいただきましたけれども、委員のみなさんからこの4事業含めまして他の項目でもよろしいかと思えます。全体を通じて、なにか質問、ご意見ありましたらお願い致します。

【F委員】

主任児童委員というのは、こども園には、入園式卒園式、運動会とかはご招待いただいて、行くのですけれども日常的に関わることは非常に少ないんです。

主に地域の福祉代表である民生委員と、小中学校との間に入って、小中学生の色々な家庭におけるトラブル等について相談を受けたりしながら関わるということが中心になってくるのですが、なかに乳幼児にしっかり関わっている民生委員の方もいるんですよ。

冒頭市長さんが、未満児を抱える母親の不安や戸惑いが、市に寄せられていると。これを市としてどう答えていくか、と課題でもある、そのようなニュアンスでお話しされていました。今までずっとお聞きしますと、市ではしっかりとした計画を立てながら、事業を行っているとはよく分かります。

例えば、乳児家庭全戸訪問事業とか、養育支援訪問事業とかお母さん達と関わりがあるのですけれども、一生懸命関わっている民生委員の方のお話によると、一部色々なお話を聞くんですが、どうしても不安を抱えたお母さん方は、地域にいる顔をよく知ったおばちゃん、例えば民生委員の方々と相談することがお母さんにとってもすごく安心感がある。ということで、しょっちゅう相談されるというんですよ。相談されたことについて、市にお願いしたり、相談をすることがあるんだけど、それをもっと、一生懸命やっているんだけど、お母さん方の立場に立った時に目線に立った時にどうなのか。そういう立場、いろんな見方から考えていく必要があるのではないかと思いますけれどもね。

例えば松本市では、子どもが生まれると、民生委員の方がスプーンをもって訪れる。そこできっかけをつくって、近くにいるおばちゃんだから、話が出来る。電話がかかってくる。松本市はすごいなあと、研修会で一緒だからそういうお話をするんですけどね。色々なやり方があると思うのだけれども、今の話の中でいくと、お母さん方の視点になってそのようなことを会議でも是非お話してもらえればと思いました。

【会 長】

ありがとうございます。他いかがですか。

安曇野市の実情はありますけれども、色々な市町村の方法など参考にしながら。幼稚園で、赤ちゃんの頃から少し大変だなと思うお子さんが、卒園して小学校に上がっていく過程で、連絡体制はもちろん出来ていると思うのですけれども、保育士の方からこの子はきっと小学校に行ったら、言葉を選びたいんですが、問題児と思われる子になっていくだろうなど、保育園の頃からそう思うんだけどというようなお話を聞いたことがあって、そんな形での学校との連携というのが、今どんなふうになっているのか、校長先生いかがでしょうか。

【G委員】

そうですね。小学校の方からの働きかけは、例えば特別支援学級とか、または1年生の担任ですけれども、来入児の時とかですね。

私は豊科南小に勤務しているのですが、学区内のこども園、幼稚園に訪問させていただいて、そこで子ども達の様子を実際に職員がみてまいります。それと同時に園長先生をはじめ、園の先生からお話を聞きましてその子どもをどんなふう支援していったら、うまく育つのか、そういったことを考えてやっております。どの小学校でもそうだと思います。それにつながって、中学校に行くということになるのですけれども、ただ子

どもが小さいので、まだ幼いので見極めるのが非常に難しい。したがって、小学校低学年から、3年生4年生ぐらいになるところで、つまり小学校にいる段階で、だんだんと不具合が出てきたりとか、そういったところをご家庭と相談しながら進めていっているのが現状です。

【会 長】

はい、ありがとうございます。

今、人間関係が色々複雑で子どもたちの問題というより、家庭や親子さんの不安定さが子どもにうつっていくというふうな、2次障害、3次障害なんていうようなことも、聞いたりしますが、まずはお母さんやお父さんとの、それぞれ担当のみなさん、相談員とか、そういった関係性をしっかりつくっていただきながら、子ども達を見守っていくという事が必要なのかなと。

それと、本当に身近なところに一人でもいいからしっかりと話を聞いてくれる大人がいることによって、親御さんが安定するのかなと思うので、そんなつなぎ方、市の相談員がすべてやるのではなくて、ここにこういう方がいるのでということで、紹介しないまでも、なんとなしにつないでいくような、地域の連携事業が出来るといいかなあと感じておりました。さて、全体どうでしょうか。

【A委員】

とかく、こういった制度というのは縦割りになりがちといいますか、高齢者福祉障害者児童というのは縦割りになりがちなのですけれども、社協はそれを横に、串刺しにして考えるくせがあるといいますか。

常日頃考えているのですけれども、子育て分野が子育て分野の関係者だけですべて固めていくのではなくて、例えば高齢者の方々マンパワーをどう導入していくか、今元気な高齢者が地域の担い手になってきましたので、二言目にはその言葉をよく聞きます。これから高齢社会であるならば、その元気な地域にいらっしゃる高齢者の方をそういった子育ての分野に、人生の先輩でもありますし、子どもにとってはおじいちゃんおばあちゃん世代、親にとってはお父さんお母さんの世代になるので、地域の中での関りというものを進めていく。そういったハード面といいますか、仕組み作りということを子育ての関係を一步通り越したところで、横の他の分野とも連携をしていくということを今後の計画にはそういった視点、ビジョンが今まで以上に必要になってくるのではないかと感じました。

【会 長】

はい、ありがとうございます。

【H委員】

今までお話を聞いていた中で少し思い出したのですけれども、一番下の子が中学生なのですが、学校教育のお手伝いに最近地域の方が入ってくれるのですが、講演会の中で長野県の中学生の不登校率が高いとか、女性の就業率が高いとか、共働きが高いという事を聞きました。私は県外出身なので、長野県は祖父母との同居世帯があると思ったので、助け合いが皆さん出来ていて、そんなに社会進出している女性の方は逆に少ないかなと思っていたのですけれども、そこで驚いたことと、不登校率、やっぱり家族の母親が出ていくことによって、子どもの小さい時の寂しさとか、今話を聞いていて何かしら関わる事が全くないとはいえないのかなと思いました。以上です。

【会 長】

はい、ありがとうございました。他はいかがですか。それでは、みなさまにたくさんのご意見を頂戴しましたが、こんな意見や気持ちを反映してこれから2年間、事業推進をお願いしたいと思います。では続きまして、会議事項の(2)事業計画に係る今後の日程等についてということでお願いします。

(2) 事業計画に係る今後の日程等について

【事務局】

資料2に基づき説明

【会 長】

事業計画に係る今後の日程等で、アンケートを決めまして、ご説明いただきました。このアンケートは例えば、もう一項目追加をとか、こういうふうに書いてとかいうご意見があったら、直接いえばいいのですか。

【事務局】

そうですね、国の基本項目はなかなか変えることは出来ないのですが、これを一読していただいて、なかに例えば「こういうことも入れた方が良くないんじゃないの」ということがあれば、ご意見を電話でもメールでも構いませんので、今月中か来月のあたまで連絡いただければ、それを盛り込みますので是非ご協力お願いいたします。本当なら会議で話して、意見を出したいと思うのですが、会議の日程が詰まっていますので、一回見ていただいて安曇野市はこの部分どうなっているのか、それをアンケートに盛り込んだ方が良くないか、という内容があればご意見いただきたいと思っておりますのでお願いします。

【会 長】

ということですので、よろしく願いいたします。資料がたくさんでいますけれども、次の会議までには是非見通しを立てていただいて、ご予約を組んでいただければと思います。それでは、次回会議日程連絡ということでお願いします。

【事務局】

出席できる日を決めていただいたのですが、会場等の都合により、19日の午後か、26日の午後という事で予定しておいていただいて、今の段階では空けておいていただければと思います。

【会 長】

(3) その他の事項ということでなにかありましたら、お願いいたします。その他よろしいですか。では、以上をもちまして、本日すべての議事を終了とさせていただきます。

7 閉会

【副会長】

長時間にわたり大変ご苦勞様でした。

以上をもちまして、平成30年度第1回安曇野市子ども子育て会議を終了といたします。

委員の皆様、お忙しい中ありがとうございました。